

た ま に 、 母 校 を 思 い 出 そ う

岡山白陵 忠高

同窓会報

発行：岡山白陵同窓会
〒709-0715 岡山県赤磐市勢力588
TEL:086-995-1255



岡山白陵同窓会
三木省吾先生之像

第22号

平成27年5月1日

～40年目の岡山白陵、新たな始まりのとき～

校長就任挨拶



校 長
大森 博幸
HIROYUKI OMORI

岡山白陵同窓会の皆様、お元気ですか。

この度、新たに校長に就任した大森です。

昭和55年、大学を卒業と同時に白陵中学校・高等学校（高砂市）に着任し、1年後の昭和56年4月から岡山白陵中学校・高等学校に勤務し丸34年になりました。そのうち学年主任として15年、進路指導部長として6年、教頭として9年、いろいろな立場で岡山白陵の歴史とともに歩んできましたが、まだまだ発展途上の学校であり、これからの将来に向けて新たな気持ちで謙虚に真摯に取り組んでいこうと思っています。

担任や学年主任として6期生、9期生、11期生、14期生、17期生、22期生、28期生と深く関わりを持ちました。また野球部にも監督や部長として約20年間携わりました。今でも当時の数々のことを

思い出して、卒業生は皆、学校にとって、また私自身にとっても貴重な宝物であると実感しています。公立と違って人と人の繋がりが私学においては最も大きな財産であるということをひしひしと感じています。

校是の「教養と節度」「愛知・究理」「正明闊達」にこめられた創設者三木省吾先生の思いを継承し、更に奥行きのある深い学校にしたいと思います。

来年は岡山白陵40周年になります。更なる発展を期して、精一杯力を注いでいきますので、今後ともよろしくごお願い申し上げます。

卒業生皆様のご健康、ご多幸、ご発展を心よりお祈りいたします。

いつでもふらりと学校を訪ねて校長室にお越しください。

教頭就任挨拶



教 頭
長野 恭也
KYOUYA NAGANO

このたび、教頭に就任しました長野恭也です。

本年で本校での在職が三十五年目になります。歳月ばかり重ね、まだまだ力不足ではありますが、石原元秀前校長が常日頃言われていましたように、日々前進することが大切である、ということを信条に、大森博幸新校長を補佐し、全力を尽くす所存でございます。今後とも皆様のご協力を賜りますよう、宜しくごお願い申し上げます。

さて、頃は四月下旬。万葉集所収の同伴家持の短歌に

ものものふの八十娘^{やそとめ}子らが汲みまがふ寺井の上のかたかごの花
というものがあります。

「かたかご」はカタクリの古名で、「かたかごの花」は可憐な淡い紅紫色の花です。ここ岡山でも、特に北部地方の山野に自生しています。高校時代使われていた国語便覧を、久しぶりに、書架から取り出して、実物の写真を見てもらっても良いです。群れなすおとめがカタクリの花を手折っている、すがすがしい光景を、同伴家持特有の、抜群の色彩

感覚で歌ったものです。私は、この短歌に詠われた光景に、山ツツジが咲く季節、新入生たちが校内を散策する姿を重ねてもみます。皆さんが岡山白陵中学校や高等学校に入学され、あの厳しい集団訓練を乗り切った後、心ワクワクさせながら校内を探検されたことを思い出してください。

卒業生の皆さんが、ビビッドに過ごされた学園は、校舎こそ新しくなりましたが、恵まれた自然は何ら変わっていません。吉井川は滔滔と流れ、今まさに鶯はさえずり、まもなくホトトギスも加わります。その頃には、憩いの広場の藤もたわわに花房を垂らすでしょう。校舎からは、各教員のそれぞれ個性あふれる声が聞こえてきます。その声の主一人一人が、皆さんが帰巣本能を働かせることを願っています。

各分野で活躍されている皆さんが、いつまでも懐かしく誇れる学園であり続けられるよう、大森新校長を始めとして私たち教職員一同力を尽くして参ります。新しくなった、学園を是非訪れてください。お待ちしております。



会長
大津 正和

MASAKAZU OTSU

御挨拶

去る2月14日に、岡山白陵では卒業式が挙行政され、179名の卒業生たちが岡山白陵を巣立っていきました。彼らは第37期生であり、彼らを迎えることで、岡山白陵同窓会は会員数が5,564名となりました。

一方で、この4月には、高校には第40期生たちが入学しています。我々第1期生の時代には、文字通りの新設校であった岡山白陵も、それなりの伝統を持った学校へと発展してきたということになります。もちろん、この発展は、学校創立者である三木園長はじめ、その時々先生方や関係者の皆さまのご努力のたまものであり、我々卒業生は、どちらかといえば、その恩恵を受けてきた立場なのかも知れません。しかし、卒業生それぞれが、それぞれの立場で活躍していることで、岡山白陵の社会的評価を高め、エールを送っていることは間違いのないことです。40年というひとつの区切りをきっかけに、同窓会活動をより一層活発化して、岡山白陵の今後の発展に少しでも貢献できるように、会員皆さまのご協力をお願いしたいと思います。

具体的には、総会をはじめとした会員相互が交流できる機会を増やしていくことです。関東地域の同窓生組織として、東京碧翠会が発足し、活動をしています。東京碧翠会は、毎年会合を開催するなど、活発に活動しています。これに対して、全国レベルでは、開催間隔が開いてしまっていた、同窓会総会を昨年開催したところ、137名の同窓生の参加がありました。この数字が多いか少ないかの判断は難しいところですが、もっと多くの参加が得られるように、開催時期や内容の工夫をして、できれば毎年開催できるくらいにしていきたいと考えています。

日本は、人口減少社会に突入する一方で、グローバル競争の中で生き抜くために、一人ひとりの意識と能力が試される時代になっています。そういう不透明な時代にこそ、高校の同窓会のような直接の利害関係から離れた関係の役割が重要になってくると考えられます。このような観点からも、出身校を起点とした同窓会活動を活発化させていきましょう。いずれにせよ、このような活動は、個々の会員の参加意識と貢献しようという気持ちにかかっています。それぞれ、日々忙しいことと推察しますが、少しずつでも力を持ち寄って、活動を発展させるように、ご協力をお願いしたいと思います。

Dosou Report 同窓会 便り

第2回「同窓会総会」報告 || 2014年11月29日(土) 岡山プラザホテルにて



5期 入江 寛さん

(弁護士)

園長世代と新しい世代



私は、大阪で弁護士登録をして22年目(修習46期)になります。今回の同窓会で5期は私1人でしたが、1~10期の皆さんや先生方に会え、大変懐かしく思いました。園長世代以降の後輩の皆さんは刺激的で、エネルギーを得ることができました。

私は、広島県庄原市東城町出身で昭和52年に中学に入学し(中学2期)、未完成だった碧翠寮(今は食堂)に入りました。三木省吾学園長からは、ありったけの教養と節度の教育を受けました。学校の創設期であり、我々生徒も主役として、岡山白陵を創っているという感じでした。ドレミの歌(音も?)、駅そば大量○学事件(学校全体に広がりました)、ファイヤーストームでの旧制高校関係の歌(今のカラオケになく残念)、雨の日注意(機嫌悪い)、階段のスリッパの音(わざとらしい)、「わかりません」「わかれー」(吉本か)、「ど、ど、どないいよん?」(何語?)。園長世代の方々、今笑いましたね。今回の同窓会は、園長世代の皆さんが少なくて残念でした。我々5期は、平成25年6月に姫路で同窓会をし転校組も含めて約30人が集まりました。園長世代の皆さん、次回同窓会にはたくさん来て、後輩たちに嘘みたいな昔話をしてやって下さいよ。そして、後輩たちから新しい岡山白陵の話も聞きましょうよ。私この度、同窓会役員に選任頂きました。園長世代として同窓会に関わっていきたくと思っています。

今回の同窓会で、大阪の弁護士の山口心平さん(22期)から複数の弁護士の方と出会いました。岡山白陵が職業のつながりで集まることのできる状況になったことを実感します。右の欄の山口さんからの「岡山白陵法曹会」の

説明、よろしくご覧下さい。

私、本年4月に大阪弁護士会の副会長に就任しました。新たなトライですが、弁護士が市民の皆さんにとって身近な存在になれるように努力していきたいと思っています。皆さんまた会いましょう。

岡山白陵法曹会(仮称)のご案内

拝啓 春陽の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、先日の平成26年11月29日に、岡山プラザホテルにて第2回岡山白陵同窓会総会が開催されました。同会において皆様と歓談中に、多数の同窓生が法曹界で活躍されていることを聞きました。今までは、個々の繋がりで集まり、同窓生同士の交流を深めてきましたが、この機に、岡山白陵出身の法曹の皆様においても、個々の繋がりをまとめて、一つの集まりにして定期的に集まっていくことができると考えております。

そこで、上記趣旨に賛同いただける法曹界に所属されている方(司法修習生可)は、下記の連絡先までご連絡いただけないでしょうか。また、質問等ありましたら、ご遠慮なくお申し出下さい。

呼びかけ人
入江寛(5期、修習46期)、山口心平(22期、修習60期)

記

連絡先 入江寛
(入江寛法律事務所) TEL06-4709-5177
または 山口心平
(弁護士法人権藤・黒田法律事務所)
TEL06-6364-9275 FAX06-6364-9276
メールアドレス yamaguchi@gondolaw.com

同窓会 Dosou Report 便り

19期幹事 黒住憲一さん

「私立高校の母校愛として感じるもの」

新緑のみぎり、岡山白陵同窓会員の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。



さて、昨年11月末に執り行われました第2回同窓会総会に参加させて頂きました。今回は19期生幹事として、日本全国に散らばった同級生に参加を呼びかけるという大きな責務を負った総会となりました。

総会中は懐かしい顔ぶれの先生方や諸先輩方・同輩・後輩と、昔話に花を咲かせておりましたが、よくよく思索してみれば、卒業してから早幾星霜。それぞれがそれぞれの道で頑張っている姿を目の当たりにし、「岡山白陵」の看板を背負う責任と、自分自身の努力の足りなさを痛感しました。

と申しますのも、中学・高校と、在籍期間は長くて6年です。当時としては時間が経つのも今ほど速く感じることはなく、私などは、のらりくらりと過ごしていました。卒業し、大学生になって初めて「岡山白陵」という枠組みから自分が外された事に気付き、社会人になってから



は尚更その感は強くなっていきました。

しかし、システムエンジニアとして6年勤務していた職場を辞め、今の仕事に転職する時、そこには（未熟ながらも）岡山白陵で培った知識・経験と、学問の師という大きな存在があって初めて意味を成すものだと、再認識せざるを得ませんでした。

在校生でいる年数よりも、卒業してからの年数が長いのは当たり前であって、そういう意味でも、母校の真の価値を作るのは卒業生であり、卒業生の活躍によって在校生も誇りある学生生活を送ることができるのではないかと、このたびの私立ならでは同窓会総会を通して思いました。

校是である「愛知・究理」とはソクラテスにまで遡る偉大な理念です。既成の概念を無批判で受け入れるのではなく、柔軟で多様性に富む多角的な視点で在校生には勉学に励んで頂きたく、我々卒業生も一層襟を正して、岡山白陵出身の社会人としての責務を果たして参ります。



31期 高野綾香さん

(兵庫県立相生高等学校教諭)

「受け継がれる精神」

第2回岡山白陵同窓会総会が11月29日（土）に岡山プラザホテルで開かれました。学生時代は頻りに連絡を取り合っていた同級生とも、社会人になってからはお互い忙しくなり、次第に疎遠となっていたため、今回の総会で同級生に会えることをとても楽しみにしていました。岡山プラザホテルに着くと、既に会場はたくさんの同窓生の方々に盛り上がり、熱気に包まれていました。私自身も、旧友を見つけお互い近況報告をし合ったり、この日来てくださった先生方とも話をしたりすることができ、楽しい時間を過ごすことが出来ました。長い間会っていなかった分、話したいことや聞きたいことがたくさんあり、時間はあっという間に過ぎていきました。また、久しぶりに同級生と会って話をすると高校時代に帰ったような気もしました。

そうしているうちに、前方スクリーンでは現在の岡山白陵の様子の動画が流れ始めました。私が高校を卒業し



てから5年。校舎は新しくなり、岡山白陵は見た目にも変化を遂げました。新しい岡山白陵に少し寂しさを感じながら、何気なく見たスクリーンには、今も昔と変わらない岡白生が映っていました。岡山白陵生といえば挨拶。私が高校生の頃、特に授業の中での挨拶について、厳しく指導して頂いたことを今もよく覚えています。この日授業の始まりの号令とともに聞こえてきた挨拶は、とても懐かしく、まさに岡白生の規律正しさを思わせる心強いものでした。時が変わって生徒が変わってもやはり岡白は岡白。精神は受け継がれていくのだなと改めて感じました。このようなことを知ることができたのも総会に出席したからこそ。今回の総会で、今までにないほど多くの同窓生の方々と新しい出会いを果たすことができ、貴重な体験をできたことを嬉しく思います。今後もこのような機会を通じて岡山白陵のつながりを広げていけたらと思います。

活躍する同窓生

今回ご紹介する同窓生はお二人です。
この岡山白陵という根から育った花の多彩なこと。



宮野 哲 (14期生)

宮野医療器株式会社 代表取締役社長

「人間万事塞翁が馬」

岡山白陵を卒業後、慶應義塾大学経済学部に進学し、大学卒業後は公認会計士として監査法人で勤務していました。その後、父の経営する宮野医療器㈱に入社し、一昨年より社長として会社経営に携わっています。

まだ会社経営について何かを語るといふ境地には到底辿り着いていませんが、不確実な情勢と不十分な情報の中、様々なステークホルダー（顧客・仕入先・社員等）にとっての存在価値を発揮し、結果責任を負わなければならないという、大変な仕事だということだけは日々実感しています。

在学当時を振り返ってみますと、先生方にとって私は非常にやりにくい生徒だったのだらうなと思います。もちろん優等生でもないし、かといって反抗期のやんちゃな男の子でもなく、どこか冷めたところがある。そんな私でしたが、見捨てることなく指導して下さった先生方には今は感謝しかありません。受験勉強は記

憶力と効率的なアウトプットの競争だと言われます。まさしくその通りだと思いますが、自分の努力が結果として表れることの達成感、今まで知らなかったこと分らなかったことが分かるようになる充実感を感じることができ、学ぶことの面白さを教えて頂きました。

寮生活でも為になったことがあります。私は元々偏食だったのですが、6年間寮食を食べ続けたおかげで全く好き嫌いがなくなりました。これは私の密かな自慢です。また、部活動はしていませんでしたが、マラソン同好会と称して放課後に吉井川堤防を走ったりしていました。卒業後は走ることもなくなりましたが、数年前から当時の仲間と新しい仲間を加えてランニングを再開しています。何年たっても、同じ釜の飯を食い、同じ風呂に入った仲間というのは本当にかけがえのないものです。

当時は気付きませんでしたが、振り返ってみると全てのことが今に繋がっていると感ずります。自分を信じて前を向いて進んでいきたいと思っています。



吉田 真之 (27期生)

岡山白陵中学高等学校 数学科教諭

「一期一会」

こんにちは。27期の吉田真之です。平成26年度より教員として、再び岡山白陵にお世話になっております。

岡山白陵という学校は、私の人生を大きく変えてくれた学校でした。小学6年生の私にとって、岡山白陵中学はいわゆる滑り止めであり、第1志望の学校ではありませんでした。第1志望の学校が不合格であったため、岡山白陵中学に入学しましたが、入学当初は「高校受験でもう一度、その学校を受験したい」と思っていたことを今でも覚えております。岡山白陵での学校生活の中で、最も大きな人生の変わり目が、岡山白陵柔道部に入学したことでした。短時間で厳しい練習の毎日、嫌になったこともありましたが、道場では柔道以外にも様々なことを学ばせて頂きました。特に印象に残っている教えが、森本先生がよく言われていた「道場に入って練習が始まったら人が変われ。」という言葉です。

やるときは一切の甘えや妥協を許さず厳しく全力で取り組むことの大切さを学ぶことができたように思います。友人、先生方との人間関係にも恵まれ、充実した学校生活を送るうちに「他校を受験したい」という気持ちは消え、(勉強と)柔道に打ち込む毎日でした。大学を卒業した後、友人達と学校に挨拶に行ったとき、中島一郎先生に「教員免許をとって教員になったらどうだ」という言葉に背中を押して頂き、仕事をしながら通信課程で教員免許をとることができたことも、岡山白陵に教員としてお世話になることができていることも、岡山白陵や道場で学んだ「やるときはやる、やらんときはやらん」という精神のおかげです。その恩返しとして、岡山白陵の生徒たち一人一人が充実した人生を送れるように、最大限の貢献をしていきたいと思っています。

母校 便り

昨年度も全国レベルで、在校生が活躍してくれています。今回は、『夏休みと言えば』の人権作文の入賞者とこの1月末に行われた将棋の全国大会、3月末に行われた科学の甲子園の出場者に感想をうかがいました。

第4回科学の甲子園出場！

サイエンスチャレンジ 総合 第1位 岡山白陵高等学校
筆記競技 第1位 岡山白陵高等学校
実技競技③ 第3位 岡山白陵高等学校

「様々な講義を受けて」

藤井 郁成

この度、我々科学の甲子園メンバーは岡山県代表として、つくば市で開かれた全国大会に参加し、勉強面のみならず、多くのことを学びました。

ノーベル賞を受賞された四人の学者の方々や、KEKの研究者の方々には研究者として現実的な話もしていただきました。これから科学に関わり生きていくであろう我々にとって、そのお話は大変興味深く、夢を描ききっかけとなりました。

最後にこのような機会を作ってくださった方々や今の学校を作ってくださった卒業生の皆様に感謝の気持ちを持って、これからも精進していこうと思います。



出場メンバー。後列左から河田君、佐藤君、玉田君、藤井君、前列左から佐久間君、大月君、河野君、松尾君

「全国大会に出場して」

佐藤 瑞貴

科学の甲子園のメンバーに選ばれ、全国大会に出場した。全国大会では、「世界の広さ」を感じた。大会での順位が思っていたよりも低かったことに加えて出場者の科学への関心の高さに驚かされた。日常会話の中でも、当然のように高校で習う以上の知識が話されていた。大会で仲良くなった他県の友人は科学の甲子園の数日後にロボット系の全国大会や科学オリンピック系の本選を控えていた。彼らが日頃から貪欲に知識を得ていて、岡白の敗因はその貪欲さの欠如にあると感じた。この大会で得た経験を大切に、興味関心の幅を広げ、全国の彼らと肩を並べられるように成長したいと強く思った。



会場で。中国地区の代表たちと

第23回全国高等学校文化連盟 将棋新人大会出場！

第34回岡山県高等学校秋季将棋大会

男子個人戦 A組 優勝 加藤大河

今年1月29日から31日、盤上の熱戦が雪国にて繰り広げられました。と言っても新潟市は雪が少なく、僕にとってはいささか期待外れでした。

結果は二勝二敗でしたが、その後の交流戦では好成績を取めることができ、まずまず納得はできました。

強い人と僕との大きな差、それは秒読みの中でも間違えない冷静さと形勢が悪くなってからの粘り強さであると痛感しました。いくつもの修羅場をくぐり抜けてきた強者達の気魄を間近で感じ取れたのは勉強になりました。

娯楽でありながらそれにとどまらないのが将棋。一層精進してゆきます。



日本生物学オリンピック2014 銀賞 加藤 終也

第19回ディベート甲子園出場！

中国・四国地区 中学・高校ディベート選手権 高校の部 第3位

第34回全国中学生 人権作文コンテスト

法務省人権擁護局長賞 満井あかり

思いもよらない大きな受賞にとっても驚きました。

人権作文を書くことで、女性の社会との関わりや今後の自分自身の生き方についても考えることができました。

人権意識をさらに磨きながら、社会と向き合っていきたいです。



最近5年間の大学入試状況

国公立大学	H27	H26	H25	H24	H23
東京大学	11	6	18	4	12
京都大学	3	5	0	4	8
大阪大学	4	6	5	11	11
神戸大学	7	4	4	4	7
九州大学	5	2	8	5	5
岡山大学	21	16	26	14	11
北海道大学	2	1	2	3	1
東北大学	0	1	1	1	5
東京工業大学	2	0	1	1	3
広島大学	1	5	5	1	3
山口大学	6	3	3	3	1
鳥取大学	2	4	6	0	5
香川大学	6	12	5	2	6
他国公立大学	66	49	33	49	48
国公立大学計	135	114	117	102	126
(内 医学部医学科)	(48)	(40)	(39)	(41)	(46)

私立大学	H27	H26	H25	H24	H23
早稲田大学	16	17	33	26	14
慶應大学	10	14	14	14	20
中央大学	9	6	14	15	9
明治大学	16	6	3	10	11
東京理科大学	6	15	12	7	9
関西学院大学	18	15	8	11	10
関西大学	5	10	1	5	2
同志社大学	20	14	16	27	15
立命館大学	23	20	15	16	8
大阪医科大学	3	1	5	6	6
関西医科大学	2	2	2	1	6
兵庫医科大学	4	3	2	6	4
他私立大学	128	84	71	71	79
私立大学計	260	207	196	215	183
(内 医学部)	(27)	(23)	(23)	(35)	(40)
卒業生数	179	153	182	167	171

次回 第3回東京同窓会「東京碧翠会」開催日時決定 平成27(2015)年6月27日(土) 15:00~

詳細をお知らせします。まずはご登録ください。

東京
碧翠会
の連絡

日時：6月27日(土)15時~ 場所：品川プリンスホテル

参加：Facebookで以下のページに飛んでいただき参加ボタンを押すか
メーリングリストへ参加の旨メール送信してください。

Facebook：<https://www.facebook.com/events/1631012450450883/>
メーリングリスト：tokyohekisui-kanji@freeml.com

岡山白陵同窓会

〒709-0715 岡山県赤磐市勢力588 TEL：086-995-1255

学校ホームページ <http://www.okahaku.ed.jp/> 同窓会ホームページ <http://www.okahaku.ed.jp/dk>

E-mail dousoukai@okahaku.ed.jp

編集

Editor's note

後記

今回も、沢山の方のご協力により、この同窓会報を発行できました。携わってくださった全ての方に、厚くお礼申し上げます。

大森新校長先生が始業式の日、校長として最初の言葉に選ばれたのは、「原点回帰」ということでした。故三木省吾先生が遺された「人間としての自己の存在を自覚し、生きていたことの証を残して生涯を終われ」の言葉を引いて、そうした志ある生徒を育てようとの岡山白陵の原点に立ち戻りたいと、決意を述べられました。それは、岡山白陵という学校の教育に創立の初期から携わってこられた大森先生の、三木省吾先生の意志を引き継がんとする覚悟であり、それが自身の役目だと

の自負なのだと思います。決して、過去に戻ろうとするのではなく、流行を鑑みながら不易を維持し、更に発展していくために、岡山白陵の歴史を背負っていくのだという気概なのだと思います。

私達の母校も、新校長先生・教頭先生のもと、新しい風が吹いています。同窓生のみならず、それぞれのお立場で新しい春をお迎えのことと思います。この一年がみなさまにとっても、ご健康に恵まれ、実り豊かな一年となりますよう、御祈念申し上げます。そしてまた、母校にも是非お立ち寄り下さい。椅子が一一新され、ほのかにさわやかな緊張感漂う職員室でお待ちしております。